挑戦課題にチャレンジする授業づくりと体育的活動の活性化にむけて

岡山県倉敷市立第一福田小学校

全校児童数	658名
全クラス数	26クラス
教職員数	58名

Ｐｌａｎ：取組時の課題と目的

1 取組時の課題

本校では、令和２年度学校評価児童アンケートで「進んで運動している」に対する肯定的回答は約 57%であった。昨年度の本事業への取り組みで約 81%まで上昇したものの、全体的に学びに向かう力の弱さを感じる面が残っている。

また、学級担任の約半数が 20 代という構成で、授業スタイルの確立が課題となっている。加えて若手中心の体育部での授業実践をどのように学年団全体に広げていくかも大きな課題である。

2 取組の目的

① 挑戦課題にチャレンジする授業を展開することで、児童が進んで運動するようになっていくこと。また、運動の行い方等を身に付け、自分で振り返りができるようになっていくこと。

② 児童発信の体育的活動が活性化することによって進んで運動に親しむ児童が増え、児童自ら運動することのよさを自覚ができるようにすること。

Ｄｏ：取組の内容

① 体育部での研修

「新体力テストのコツ」

岡山県教育庁保健体育課　大和 知矢　指導主事

「水泳学習」

倉敷市教育委員会保健体育課　藤原 義宜　指導主事

② 児童へのしかけ

○ スポーツウィーク

運動委員会で、「どうしたら感染症対策をしながらでも休み時間に外遊びが広がるか」を考え、子どもたちが発案した「スポーツウィーク」を実践した。その中には 100m走で全国２位となった児童を鬼とする「全校鬼ごっこ」など児童ならではの柔軟でユニーク

な取組もあり、休み時間に運動場へ出ようとする意欲に繋がった。好評であったため、運動委員会の児童が自らの企画の達成感を味わうことができた。

○ 冬季業間運動の復活

冬季に感染症の発生状況等を見考慮しながら、期間限定で長縄跳びと持久走の業間運動を３年ぶりに復活した。感染症対策のため、全校児童を２グループに分けての実施となった。ここでも低学年の長縄を回したり、進行をしたりと運動委員会を中心とした高学年の積極的な姿が見られた。２年２組は、岡山県「みんなでチャレンジランキング」の８の字跳び部門で見事「第１位」となった。

③ 体育科授業づくり研修

・講義演習「挑戦課題の授業づくり　初級編」

岡山大学教育学研究科　原 祐一　准教授

・ＯＪＴ研修「挑戦課題にチャレンジする授業づくり」

本校体育主任　木内 健太　教諭

・授業検討会

体育部の教員（１～６年生と特別支援学級担任）は、それぞれの授業公開に向けて、研修を受けた上で、中・四国小学校体育研究大会を実施した倉敷市立中庄小学校の学習指導案を参考として学習計画を立て、体育部や学年団で授業を立案した。

さらに近隣小学校の授業協力者の先生を訪ねて「授業検討会」を行い、エキスパートの専門的視点から指導助言を受け、授業案をブラッシュアップしていった。

※ 授業検討会協力者

・連島東小学校　吉川 伸二　主幹教諭（低学年）
・連島西浦小学校　岩佐 進　教諭（中学年）
・連島南小学校　安藤 正　主幹教諭（高学年）
・豊洲小学校　浅野 宏聡　教諭（特別支援学級）

④ 公開授業

こうした教材研究を生かし、それぞれの教員が校内で授業公開を行った。お互いに授業を見せ合ったり、授業反省会で議論を重ねていったりしたことで、切磋

琢磨しながら授業力アップを図った。

※　公開授業の内容

１年…跳び箱を使った運動遊び
２年…鬼遊び
３年…幅跳び
４年…表現
５年…ゴール型：ハンドボール
６年…ゴール型：サッカー

自閉症・情緒障害特別支援学級…多様な動きをつくる運動遊び

●工夫したこと

○　他校のエキスパートの先生方から授業についての指導助言をいただいたこと。（授業検討会）

○　校内研究（算数科）とは別に、若手教員が集まる体育部を中心として体育科の授業研究を行い、随時、タイムリーなＯＪＴ研修を取り入れたこと。

○　体育主任が中心となり、本校体育科のモデルとなる授業のスタイルを作成し、提示したこと。

○　学びに向かう力の乏しい児童が多いことへの対策として、主運動に繋がり心も体もスイッチオンにできるような運動との出合わせ方を工夫したこと。

（例）・３年生…ひょうたん鬼ごっこ ➡ 幅跳びへ
　　・６年生…股抜きゲーム ➡ サッカーへ

○　他の教科の授業と同様に、どの学年も毎時間の振り返りを大切に積み上げていったこと。

○　実践の拡大をねらい、授業の検討や実践に学年団（他の学級）を巻き込んだこと。

○　運動委員会の児童に本校の課題等を投げかけることにより、児童発信の活動を引き出したこと。

○　児童発信の取組を実践することで、児童自身に運動の活性化を自覚させていったこと。（目的②につながるように）

Ｃｈｅｃｋ：取組の成果

体育部が行った全校児童へのからまつアンケートでは「体育の授業が好きですか」、「めあてに向かって活動を行っていますか」、「学んだことをきちんと振り返る活動を行っていますか」、「友達と助け合ったり、役割を果たしたりする活動を行っていますか」、「友達同士の中で話し合う活動を行っていますか」等の質問項目すべてで学年始めより肯定的回答の割合が高まる結果となった。特に「振り返り」は９％、「協力・役割」は10％、「話し合う」は17％と大幅に上昇しており、児童の学び合いを大切にした授業が増えたことが伺える。令和４年度学校評価児童アンケートの「進んで運動している」への肯定的回答は約 83.6％で、前年度（約 81％）よりもさらに上昇した。

低迷していた新体力テストの結果については、ほぼすべての学年で、岡山県の平均得点を超える好結果となった。事前にやり方のコツをレクチャーしていただき、若手教員のモチベーションが高まったこともあるが、２年間にわたる本事業の取組で体育科授業を充実させることで、結果として体力向上を図ることができると証明できたのではないだろうか。

Ａｃｔｉｏｎ：今後の課題

○　本年度についても感染症対策もあったため校内の取組にとどまり、公開授業を他校の先生方に見てもらうことができなかった。日頃の授業をまずは近隣の小・中学校の先生方へも発信していきたい。

○　今後の感染症対策やどのように体育科学習を推進していくのか、体育的行事や業間運動をどうしていくのか、近隣の小学校とも連携を図りながら知恵を出し合っていきたい。

◎体育授業の充実がもたらす波及効果

○　体育部が行った児童へのアンケート結果から、体育科授業においても、他の教科同様、挑戦課題や問いやめあてに向かって学習すること、友達との学び合いが効果的であること、毎時間の振り返りが学習の自覚と次時への活動意欲に繋がっていくこと等を理解できたのではないかと感じられる。これは挑戦課題をテーマに単元を通し焦点化した学習活動を考え、試行錯誤しながら体育部を中心として学年団で一緒に授業を推進していった成果でると考える。

○　生涯にわたって運動に親しむ児童を育成するためには、単に技能や体力を高めるだけでなく、この運動の何がおもしろいのか、どうやったら自分たちで楽しい活動を創ることができるのか、といった運動の特性を踏まえた「運動の行い方」を身に付けていく必要があると考える。いつでもどこでもだれとでも夢中になって多様な運動を楽しむことで、結果として学びに向かう力や学び合いの力も高まり、体力向上へも繋がる。そのような素地を創ることができるよう、引き続き、体育部中心に研究を進めていきたい。